

令和5年度

学校自己評価表（計画）

学 校 運 営 計 画					
学 校 運 営 方 針		1 地域を支える、地域に応えられる人材の育成 2 基礎力（学力・体力・忠恕）充実から節度の育成 3 「知徳体（知仁勇）」の実践から健全な人間育成			
昨年度の成果と課題		年度の重点目標		具体的な取組目標	
成果 (1) オンライン授業等のICTを活用した授業展開の推進 (2) 生徒指導、教科指導の強化により、退学者がゼロであった。 (3) コロナ禍の中、限定的ながら地域連携を継続的に実施できた。 (4) いじめ防止対策の校内体制が確立され、※ <u>いじめ認知件数</u> が増加した。 ※R4_25件、R3_11件		1 総合学科の特性の発揮と学ぶ目的の明確化		(1)各系列における主となるテーマに基づく指導	
				(2)キャリア教育としての位置づけの中での生徒の主体的な科目（系列）選択	
				(3)新教育課程の実施と学習評価の改善	
		課題 (1) 募集学級減にともなう職員数の減少による業務の効率化 (2) ICTを活用した更なる授業展開の推進 (3) 栃高未来プロジェクトの効果的な事業実施と成果の外部発信 (4) 中途退学・転学者、長期欠席者の防止といじめのない学校づくりの推進 (5) 部活動の活性化と効率的な運営		2 生徒の学習意欲の向上と基本的生活習慣の確立	
(2)基本的生活習慣の確立と問題行動に対する予防指導の徹底					
(3)生徒情報の共有化と特別支援教育の充実					
(4)中途退学・転学者、長期欠席者の防止					
		3 地域の企業や福祉施設、幼保・小・中学校、行政、住民、大学等との連携・交流の拡大		(1)魅力と活力ある学校づくり（栃高未来プロジェクト委員会）の充実	
				(2)学校評議員会、地域の声を聞く会を活用した地域連携の強化	
				(3)地域の関係機関・施設との連携の双方向化	
				(4)学校ホームページの充実と学校便り等の発行	
		4 いじめのない学校づくりの推進		(1)校内いじめ対策推進組織と「いじめ防止基本方針」「行動計画」の実効化	
				(2)人権意識の醸成によるいじめの未然防止	
5 部活動の活性化と効率的な運営		魅力的かつ継続的な活動の推進と生徒減に対応した部活動の在り方再検討			
重点目標	具体的目標	具体的方策		(部署)	評価
1 総合学科の特性の発揮と学ぶ目的の明確化	(1)各系列における主となるテーマに基づく指導の充実	「産業社会と人間」における系列説明会等で、系列ごとの特色や進路などを具体的に提示する。		1年次	
		選択科目説明会等で各系列ごとの特色や進路を具体的に提示し、自らの進路に即した科目選択ができるようにする。		2年次	
		進路実現を図り、職場や進学先で自立し、最後まで責任を持って仕事・学業をやり遂げる態度や能力を養う。		3年次	
		生徒の実態に応じてさまざまな教材を選定し、社会人とし		国語科	

		て通用する読解力・表現力を養わせる。		
		福祉・家庭系列において、地域交流を取り入れた校外実習を行うとともに、各種検定を取り入れ、技術の向上と社会貢献に関する意識を高めさせる。	家庭科	
		実験・実習を多く取り入れ、ものづくりを体験しながら、エンジニアとして必要な知識や技能を身に付けさせる。	工業科	
		工業に関わる資格・検定試験の指導と実施。	工業科	
		商業に関する各種検定試験の指導と実施。	商業科	
		商業科目を学ぶことを通して、将来の職業人として必要な豊かな人間性の基礎を育成する。	商業科	
	(2) キャリア教育としての位置づけの中での生徒の主体的な科目(系列)選択の指導	「産業社会と人間」や椋峰ライフ等を通して自己理解と進路に対する意識を深めさせ、主体的な科目(系列)選択ができるよう、ガイダンス等の内容を充実させる。	1 年次	
		自己実現の達成に向け、作品の廊下掲示や椋峰祭の発表等の表現活動を行い自己理解の認識と能力向上に努める。	芸術科	
		日常生活に芸術を取り入れ、自他批評する能力を養い、自らの可能性を追求し、自己発見する。	芸術科	
		情報技術を効果的に活用して、情報を収集・処理・表現するとともに、効果的なコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に主体的に参画するための資質、能力を育成する。	情報科	
		総合学科としての特性を生かし、工業系列選択者に対し、機械・電気・住宅・情報・デザイン等の工業各分野において興味・関心を持ち、幅広い知識や技能を身に付けることができるような授業のテーマや内容を設定する。	工業科	
		学年・教科および教育課程・選択科目調整委員会との連携を図り、本校の系列の特徴を具体的にわかりやすく説明する。それにより学習活動を通じて勤労観・職業観を育成できるような科目選択を行わせる。	教務部	
	(3) 新教育課程の実施と学習評価の改善	小規模総合高校のあり方について各系列、教育課程・選択科目調整委員会等と連携し検討するとともに、新教育課程および観点別評価の実施に向けた準備を着実に進める。	教務部	
		職員減に伴う教育課程の点検・見直しおよび科目選択の在り方を着実に進める。また、令和 7 年度学級減に向けて、ワーキンググループと教育課程・選択科目調整委員会で互いに連携・協力して、よりよい教育課程の構築に向けて準備を進める。	教育課程・選択科目調整委員会	
2 生徒の学習意欲の向上と基本的	(1) 入学当初からの継続的なキャリア教育の実施とわかる授業	「産業社会と人間」「椋峰ライフ」の内容を踏まえ、3 年間を見通した進路指導の充実を図る。	1 年次	
		インターンシップや進路ガイダンス、面談を通して、進路を具体化させるとともに、勤労の大切さを実感させる。	2 年次	

生活習慣
の確立

橡峰ライフの時間を中心に、進路に関する情報を提供するとともに、面接・作文・小論文の指導を実施し、進路実現を図る。	3 年次	
個人面談や三者面談を通じて、生徒の進路希望を保護者等、職員間で把握できるようにする。	3 年次	
漢字学習の習得および資格取得の機会として漢字能力検定を年二回校内で実施出来るよう計画し、副教材を活用して生徒の基礎学力向上を図る。	国語科	
少人数クラス展開をし、生徒の実態に応じた教材の提供や適時の補習等により実用数学技能検定 3 級程度の計算力を身につけさせる。	数学科	
少人数クラス展開により学習効果を高め、英語の基礎力の養成、充実に努める。	英語科	
ALT との授業を通じ異文化に対する興味や理解を深め、国際社会に通じる人権意識を養う。	英語科	
パフォーマンステストを年 2 回以上実施し、積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢を養う。	英語科	
希望する進路実現に備え、資格・検定試験の補習を積極的に行い、卒業までに一つでも多く合格できるよう指導する。 丙種危険物取扱者・計算技術検定・パソコン利用技術検定・情報技術検定においては 5 0 % 以上の合格を目指す。	工業科	
実習で学んだ内容を他者に適確に伝えられるように、プレゼンテーションソフトや文書表現などの技術を学び、コミュニケーション能力の育成に努める。	工業科	
基礎基本の定着を図り、進路実現に結びつける。各種検定試験の合格率を向上させる。	商業科	
年間活動計画を策定し、全校生徒へのアンケートや意見交換を行い、自発的参加の委員会活動や行事運営を進める。また役割分担を明確にし、参加意欲を高められる行事への企画・運営を行う。	生徒会部	
上級学校見学・企業見学を通して、求められる力を把握し、進路目標を明確にさせる。	進路指導部	
外部講師等による進路ガイダンスや模擬授業を提供し、自己の適性に見合う進路を考えさせる。	進路指導部	
基礎力テスト、適性検査等を年間 3 回実施し、個々の基礎学力の向上を図る。	進路指導部	
個々の生徒に対応した進学補習を継続的に行うことにより、学習意欲を喚起し、進学に必要な学習習慣の定着と学力の向上を目指す。	進路指導部	
模擬試験を実施し、進路を意識した学習の定着と入試に向けた実践力の向上を図る。	進路指導部	
個人面談などを通じて生徒の希望や適性を把握し、担任との連携を図りながら、具体的な進路目標を設定させる。ま	進路指導部	

	た、企業の採用担当者との面談を通して採用に対する考え方を分析し、具体的情報を提供する。		
	ハローワークと連携し模擬面接や個別面談を行い、個々の希望・適性に応じた指導を行う。	進路指導部	
	日常の生徒とのやりとりの中で、また作文指導や面接指導を通じ、社会人としてのマナー・常識の確立を図る。	進路指導部	
(2) 基本的な生活習慣の確立と問題行動に対する予防指導の徹底	朝学習を通じて、授業の始業・終業時の規律を守れるよう指導する。	1 年次	
	朝学習を通じて、授業の始業・終業時の規律を守れるよう指導する。	2 年次	
	率先して学校行事や各種活動に参加し、最高学年としての責任を果たす。	3 年次	
	漢字小テストを計画的に実施するとともにワークブックの提出を定期的に課し、計画的かつ継続的な家庭学習の習慣を養う。	国語科	
	定期的に課題を課し、家庭での学習習慣の確立を目指す。	数学科	
	必要に応じ課題などを課し、基礎的な学力の定着を目指す。	理 科	
	食生活、睡眠（休養）、運動の大切さを理解し、自ら計画及び管理し、健康の保持増進のために 1 日の生活のリズムの確立を促す。	保健体育科	
	服装・時間・挨拶・競技ルール of 遵守等を徹底し、集団における規律や協調・協力の重要性を理解し、安全な学校生活が送れるように指導する。	保健体育科	
	授業開始時刻を徹底し、時間厳守による自己管理の育成を促す。共同制作を通じて協調性を育む。	芸術科	
	全校集会等を通じ、欠席や遅刻、服装等の身だしなみ、貴重品管理の徹底などの指導や、学業における不振科目が出ないよう計画・助言する。	教務部	
	全職員による登校指導、校内巡視や服装・頭髪検査を実施し、必要に応じ継続的な指導を行う。	生徒指導部	
	スマホ安全教室、薬物乱用防止講演会や原付バイク実技講習を年間行事に組み入れ、生徒の指導に役立てる。	生徒指導部	
	多様な生徒に対し、必要に応じて関係機関との連携を図り、継続的に指導を行う。	生徒指導部	
	あいさつの奨励を行い、学校全体の活力につなげ、社会的マナーの向上につなげる。	生徒会部	
	保健便りを発行し、健康・安全に関する情報提供を行う。	保健環境部	
	各種検診を実施し、事後の指導を通じて早期治療を促す。	保健環境部	

		緊急時の連絡体制を整え、教職員に周知する。	保健環境部		
	(3) 生徒情報の共有化と特別支援教育の充実	中高連携シートの内容を共有し、各生徒の特性に応じた対応ができるよう学年全体で取り組む。	1 年次		
		学年会で生徒情報を共有し、配慮が必要な生徒に対しては、各分掌、管理職と協力して支援を行う。	2 年次		
		心身の問題、疾病、その他配慮が必要な生徒についての情報を職員全体に共有し、必要に応じてケース会議を実施して、個別の対応や、スクールカウンセラー・外部機関との連携を行う。	保健環境部		
	(4) 中途退学・転学者、長期欠席者の防止	基本的な生活習慣の確立をはかる。また、基礎的な学習事項を繰り返し学習させ、成績不振や未履修・未修得を防ぐ。	1 年次		
		基本的な生活習慣の確立や学習習慣の定着をはかり、成績不振や未履修・未修得を防ぐ。	2 年次		
		個々の生徒への声かけを行い、問題を抱えている生徒の早期発見と対応、教員間の情報共有に努める。特に支援や配慮が必要な生徒については、共通理解を図る。	2 年次		
		生徒会行事を通して、学年間の横のつながりと学年を越えた縦のつながりや係わりを持たせることによって、学校生活への充実と交流を深めることができる環境をつくる。	生徒会部		
		保健講話を実施し、生徒の心身の健全化をはかる。	保健環境部		
		スクールカウンセラーと連携し、生徒や保護者等が抱える問題の解決のために援助を行う。	保健環境部		
		教員対象の教育相談研修会を実施し、生徒理解や個別の生徒対応等について学ぶ場を設定する。	保健環境部		
3 地域の企業や福祉施設、幼保・小・中学校、行政、住民、大学等との連携・交流の充実	(1) 魅力と活力ある学校づくり（栃高未来プロジェクト委員会）の充実	地域の産業や伝統を体験することにより地域理解をさらに深め、地域の活性化に貢献する。	2 年次		
		地域の産業や伝統を体験することにより地域理解をさらに深め、地域の活性化に貢献するための資質や態度を育成する。	3 年次		
		栃尾地域の課題に着目し、SDGs の視点を取り入れながら、課題解決に向けた取り組みを実践し、地域に必要とされる高校の実現をめざす。また、地域の交流イベント等を企画・運営し、生徒が主体的に行動できる能力を育む。	栃プロ委員会		
	(2) 学校評議員会、地域の声を聞く会を活用した地域連携の強化	P T A、地域の声を聞く会等において、外部から寄せられる意見等を参考にして、生徒指導上の課題解決を図る。	生徒指導部		
	(3) 地域の関係機関・施設との連携の双方向化	中高連携シートを利用し、中学校からの情報を元に、学習指導や生活指導の指導に役立てる。	1 年次		
		文化祭や演奏会、地域貢献活動等での作品発表・展示・演	芸術科		

		奏を通じて、地域の方や地元小・中学生にアピールする。			
		地域の保育園や高齢者施設、社会福祉協議会との連携を深めた内容の実習を取り入れるとともに、生徒自身が地域社会を担う存在であることを理解させ、意欲的に社会参加する態度を育成する。	家庭科		
		ビジネス・情報系列の生徒と長岡大学の学生と連携して商品開発や観光に関する企画等を行い、地域活性化プログラムを開発し、開かれた教育課程の構築を図る。	商業科		
		地域交流イベントである「来て！見て！作って！体験フェスティバル」等に参加し、体験的なブースで小中学生やその保護者に対し、栃尾高校工業科の特色や学習内容を発信することで、進路選択の一助となるように努める。	工業科		
		中学生対象学校見学会を実施し、学校説明を行い本校の特徴を積極的にPRする。	教務部		
	(4) 学校ホームページの充実と学校便り等の発行	適宜ホームページを更新し、保護者や地域にも学校の状況が伝わるようにする。	教務部		
		各行事ごとの映像を撮影し、行事紹介や結果報告の一助となるように努める。	生徒会部		
4 いじめのない学校づくり	(1) 校内いじめ対策推進組織と「いじめ防止基本方針」「行動計画」の実効化	個々の生徒への声がけや、生徒情報の共有化をはかることで、問題を抱えている生徒の早期発見につとめる。また、生活アンケート等いじめの兆候に即時に対応する。	1 年次		
		個々の生徒への声かけや、生徒情報の共有化をはかることで、問題を抱えている生徒の早期発見とその対応に努める。	2 年次		
		生徒指導部内だけでなく、全職員で情報を共有しながら指導する。	生徒指導部		
		年3回のアンケートを実施するとともに、委員会を開催し、いじめの兆候を早期に察知する。	いじめ対策委員会		
		いじめを察知した場合は、管理職とともに適切な判断のもと迅速に対応し、全職員で協力して問題解決に当たる。また、スクールカウンセラーと連携し、問題の解決のために援助を行う。	いじめ対策委員会		
		いじめに関する職員研修を開催する。毎年、基本方針および実践するための行動計画を点検し、必要に応じて改定していく。	いじめ対策委員会		
	(2) 人権意識の醸成によるいじめの未然防止	LHR、「産業社会と人間」、橡峰ライフなどの時間を活用し、幅広く人権教育を行い、いじめや差別を見逃さない心を育てる。	1 年次		
		LHRや橡峰ライフなどの時間を活用し、幅広く人権教育を行い、いじめや差別を見逃さない心を育てる。	2 年次		
		生徒一人ひとりが他者の権利を尊重する意識を持ち、行動できる感性と能力を養う。	3 年次		

		武道や球技等の特性を活かして相手やチームのメンバーを尊重し、協力した活動を促すとともに、相手を思いやる大切さや意識の啓発、危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保できる能力を養う。	保健体育科			
		スマホ安全教室等を活用し、ネットいじめの未然防止やSNS教育、携帯モラル教育の充実に努める。	生徒指導部			
5 部活動の活性化と効率的な運営	魅力的かつ継続と生徒減に対応した部活動の在り方検討	入学時に生徒に部活動への参加を積極的に呼びかける。	1 年次			
		授業を通して多くの運動種目を経験し、運動の楽しみや面白さを理解する中で、運動部への興味関心を高め運動部加入率の向上を目指す。	保健体育科			
		1 年次での部活動への原則全員加入が、2・3 学次でも継続できるよう継続的な啓発活動を行う。また、必要に応じて部活動顧問会議を開催し、部活動の状況を確認および協議することで活発な活動へとつなげる。	生徒会部			
成果					総合評価	